

総務委員会会議録

平成25年11月13日（水）

午前9時30分 開会

○伊東英委員長

ただいまから総務委員会を開会します。

協議題1.「閉会中の調査事項について」を議題とします。

前回の委員会で、今回のテーマについて、最終目標などいろんなご意見を皆さんに考えていただき提出していただきました。それを皆さんのお手元に配布しておりますが、今日、活発な議論をいたしまして、最終的に視察先、内容を決めていきたいと思っております。

しばらく休憩いたします。

午前 9時32分 休憩

午前 9時33分 再開

○伊東英委員長

休憩を解き委員会を再開します。先般、皆さんに宿題としてまとめていただきましたが、それを順番にやっていきたいと思っております。

○中村宗雄委員

この宿題が出た時と書いた時がずれているので、的が外れているかもしれませんが、要するに「市民と行政との情報共有・活用」というのは、どうなっていなければいけないか。と、それでどんなことを調査するのか。の2つだと思います。なので、現状の半田市の課題や前提はどうでもよくて、どうなっていないといけないのか。というところで、オープンデータとかビッグデータの2つにこだわらずに、あるものを出すときに何のために公開するのか。その辺のことだと思う。実際に見に行ってみないとわからないですが、調査項目の中の何でそれに取り組もうとしたのか、それがデータ化するのにどれだけコストがかかるのか、アプリの開発の必要性やデータ公開することもメリット、デメリット。要するに住んでいる市民の方が実際にどのような恩恵を得ているのか。公開している側のマスターバージョンではいけないと思う。うちはこんなことをしているという自慢話と市民がこんな恩恵を被っているということを調査するべきだと思います。ですので、フィックスマイストリートでも全部そうですが、やっている側の都合とそれを受けている側の市民の実際の恩恵をきちんと調査するべきだと思っております、このようにまとめました。以上です。

○伊東英委員長

ありがとうございました。

○久世孝宏委員

シナリオ作りからの視察先をどうしていくか。視察で何を見ていくかという宿題だったと思っておりますが、僕は今回の閉会中の調査テーマの目的というか、とにかく市民をいかに市政に参画していただくか。それによって市民協働という言葉で引っかかる部分がありますが、行政がやりきれない部分を市民にやらせようと。市民が必要なものを

市民自身で作っていく流れを作っていくことによって、有用なものができる。本当に市民が役に立つものができることによって、市民の利便性が向上していくという流れがあると思っています。そのために今回「情報の共有」ということをテーマにそのあたりを喚起していくというか、市民が市政に関わっていくようなことを作っていくんじゃないかなと思っています。そうなってくると、その中の手法でオープンデータの推進に取り組んでいこうということなので、そのことに関して、何が確認をしたいかと言えば、庁内でオープンデータにするのに何をオープンデータにするのか、どのように決めているのか。多分、僕の感覚だとこれは要るか要らないか。ということを考えながら出していくと、市民が何を作りたいかということも100パーセント把握できていない状況だといけなくて、こんなの必要かというものまで出していくような仕組みが理想ではないかと思っていますが、実際にやっている先進地では、オープンデータに取り組んでいくものの種別をどのように選別しているか。というところと、市政に市民を巻き込んでいきたいし、参画してもらいたいと思うのであれば、受け手の市民に対して、どのようなアプローチが必要になってくるのか。というところですね。実際にアプリを作る講座を市民向けに市が主導してやったり、コンテストも盛り上げていく手法のひとつでもあると思いますし、そんなの企画しているのか、それとも時代の流れでどんどん進んでいく内容でもあると思いますので、それを待っている中で先に行政だけその形だけ作って待っている状況なのかと。その辺りの市民に対しての働きかけや連携をどのようにやっているのかを特に見たいと思っています。あとは、データを整備するための費用など確認したいと思いました。視察先の案ですが、たまたま見つけたんですが、岐阜県がオープンデータを活用した新サービス創出・研究事業に取り組んでいて、その中心地が大垣市だそうです。ソフトピアジャパンという名前を付けていろいろやっているみたいで、スマートフォンでこういうデータを活用するような仕組みに取り組んでいるようなことだったので、案として鯖江市に行って大垣市なら行けると思い提案しました。以上です。

○中村宗雄委員

これを進めていくにあたって、どうしてもその仕組みや手法に捕らわれていってしまいますが、僕は半田版の「市民と行政の情報共有・活用」をやるときに、情報を公開するのは行政、活用するのは市民という大前提があり、それを公開し何のためにそれをやるのかというところで、今、思いあたるところで言えば、「防災・観光・企業立地」そのためのだけにやるような、何か特化してやらないと膨大な量があるわけで、今、半田の中で必要なのはその3つじゃないのかなと。だから的を絞って、そのための手法や仕組みを研究していかないと、最終的に見に行ったらその仕組みを丸ごと持ってきたところでそれが一体何になるのか。という話になりかねないので、何のためにというその狙いの部分だけを共有しながらやっていく必要があると思いました。以上です。

○小栗佳仁委員

私としては、今まで総務委員会の中で出てきたSNSまたはオープンデータ、フィックスマイストリートと色々な最近の各自治体の取り組みがあって、それぞれについて特徴的なところをリアルタイム、インタラクティブなどこういったところを見ていきますと相互の組み合わせもかなりやっていかないと現状からかなり市民協働というところ

までいかないということがありまして、あるオープンデータをもとにソーシャルメディアやフィックスマイストリートを上手く組み合わせられるような仕組みも考えながら各市町を見て取組状況を調査したいということでもあります。最終的な目的としては、やはり協働というところに目を向けて、協働都市半田を目指せる仕組みを構築するためにどうするかを考えて、それぞれについて書いて最後にまとめております。以上です。

○山田清一委員

目的として市政への市民参加。市民協働へつながることに取り組む必要があるというところで、私はこういう部門に非常に弱いですが、ただ、ひとつ言えることは、今、半田市がツイッターを防災交通課が発信していますが、私もよく台風時など、よくリツイートしますが、非常に市民にとって有益でなおかつ手軽でなおかつお金がかからないので、もっともっとやはりそうしたものを行政において活用すべきだと思っています。そうした点で、市としてのこうしたもののルール作り、仕組みを将来を踏まえて考えなければいけない。そうした先進地といわれるところはそうしたものもきちんと取り組まれていると思いますし、そのうえで短期的にはツールとしてはツイッターやフェイスブックは必須だと思いますので、その点を調査研究したいということ、オープンデータについては、短期的というよりは将来を見据えたうえでということでの調査研究が必要だと考えています。ということで視察候補地も記載のところがいいのではないかと候補として挙げさせていただきました。以上です。

○成田吉毅副委員長

今はスマホやタブレットなどいろんな情報社会、進化しているので、市がやっている情報の媒体が紙ベースから最近、防災ツイッターや半田病院などはフェイスブックとありますが、それは最近であって、基本的には行政から市民にくる情報は紙媒体がメインだと思っています。それが結局これからの時代に考えた時に不便で時代にあっていない状態にきていると思います。ですので、そういった状況を踏まえた中で考えると、行政も変えていけばいいんじゃないか、進化していけばいいんじゃないかと。今、行政がフィックスマイストリートジャパンをやっているということで、これは進めていけばいいと思いますが、議会としてこうしたほうがいいのではないかという意見は出せると思います。やはり今、20代から40代、50代の人たちが結構SNSを使っていて、40代～50代、それ以降の年代の方たちが従来の情報ツール、新聞や市報を使っていて、その辺で市政などそういったものの興味は若い人たちは触れる機会がないのか、使っているスマホにそのような情報を載せれば興味が湧いてきて、どんどん参画してくれるのではないかと考えているので、そういう意味でもやるべきだと思います。市政懇談会や議会報告会など情報が入ってきたら、そういうことをやっていることがわかりますし、逆に市に提言するのではなく、議会でやってしまえばいいのではないかと最近思っていて、議会がフェイスブックのページを作ってしまうとか、二元代表制なので議会と行政と2つあればいいと思います。またオープンデータですが、いきなり市民というよりも今、半田市に市民団体やNPOなど非営利団体が169団体あり、いろいろな活動をしているということは、そういうニーズやこういった町にしたいからそういった活動をしているとか、そういう団体が活動しやすいような情報を提供したり、逆にこういう情報があると活動しやすいというような、これは福祉や観光、まちおこしなどいろんな分野に使える

と思いましたが。視察では、先進的にやられているわけなので、メリット・デメリットとか、実際にやっていてどういう情報をどのように使っていて、それによっていいことがあったとか、知りたいと思いました。将来的には映像などを使って市が例えば、観光に力を入れてこういうことやってますとか、南吉の紹介、ふるさと納税のCMに活用するなど観光や文化、半田のブランドを発信していくこともありだと思います。視察先は、武雄市をあげましたが非現実的だと思いますし、一番最初に始めた自治体は逆に学ぶところがないのかなと、2番手で始めた自治体のほうが意外と何でやろうと思ったのか、やってみてどうなのかというところを学ぶにはいいのかなと思いました。

○伊東英委員長

ありがとうございました。委員の中でいろんな提案があがってきまして、委員長の私としても皆さんのご意見を見ていて、例えばフェイスブックのことが入ってきて戸惑いましたが、やはり最初からオープンデータということで方向性を決めていくということでしたので、中村委員のおっしゃるとおり何に活用できるかを探っていく。それから範囲でも膨大な情報を全公開するのではなく、何かに特化して公開したほうが市民にとってさらに情報を使って活用できるのではないかとイメージが湧いて、本題のまとめに入っていきますが、現状の課題として、行政から市民への情報伝達が紙媒体やホームページなどで一方通行なので、例えば昨日の市政懇談会におきましても、どうしても対象が一方通行になってしまう。働く世代や若い方には関心を持っていただけない。元区長など65歳以上の方がお見えになる状況では、やはりオープンデータの必要性がさらに考えられたわけですが、行政が市民ともっと情報共有できて市民ニーズをしっかりと捕まえるような環境整備が必要であると感じてこのように書いたわけですが、大きな情報の中から市民が必要とする情報だけを提供する。それが活用されれば一番生活の利便性の向上や市政への参画にもつながっていく。しいては、市民協働の意味をもってまちづくりの実現につながっていくのかなという考えでまとめてみました。先ほど成田委員から出ました現役世代40代・50代、それから若年層のほうがかえって市政に無関心な現状ではないかと、その方たちのためにもオープンデータやフェイスブック等で情報発信、相互共有ができればもっと市政に参画していただいて、関心をもっていただけるのではないかと思います。しばらく休憩いたします。

午前 9時53分 休憩

午前10時17分 再開

○伊東英委員長

それでは委員会を再開します。今回の総務委員会の調査テーマ「市民と行政との情報共有・活用について」ということで視察に行きたいと思えます。それで、相手先もあることですが1月29・30・31日の日程で2泊3日で視察先と日程調整をしたいと思えます。よろしいでしょうか。

【異議なしとの声あり】

ありがとうございます。視察先ですが鯖江市、千葉市、横浜市、つくば市ということで相手先と調整してまいりたいと思えます。

次回の委員会の日程を決めたいと思いますが。
しばらく休憩をいたします。

午前10時18分 休憩
午前10時21分 再開

○伊東委員長

委員会を再開いたします。次回の委員会を12月18日全員協議会后ということでよろしいでしょうか。

【異議なしとの声あり】

ありがとうございます。次回の委員会は視察まである程度時間があると思いますのでまた質問事項を精査して皆さんのご意見を伺いたいと思いますのでよろしくお願いいたします。

続きまして、協議題2. その他で何かありましたらお願いいたします。

しばらく休憩いたします。

午前10時22分 休憩
午前10時29分 再開

○伊東英委員長

委員会を再開いたします。他に何かありませんか。

【なしとの声あり】

以上で本日予定していました議事はすべて終了いたしました。

これをもちまして、本日の委員会は閉会いたします。

午前10時30分 閉会